



ちせんかいゆうしきていえん
池泉回遊式庭園

森田家の庭園は森田梅園が京都遊学の折に習得した知識を活かし造営した京風の池泉回遊式庭園です。池泉回遊式庭園とは大きな池を中心に配し、築山・小島・橋・名石などで景勝を再現したものです。

森田家の後園は、大きな二つの池と小島を結ぶ橋、小さな滝、築山、榛名山の借景などが取り入れられ、その規模や作庭の卓抜さは個人所有の庭園としては県下に類を見ない名園です。森田家に滞在した歌人の橋本直香は「後園十二景」(1865年)にその見事さを詠んでいます。



石畳の小径



榛名連山の借景が取り入れられた後園

解説付き動画

MOVIE

森田家住宅は町指定重要文化財ですが、個人宅のため、外観を見ることはできますが内部を見学することはできません。そこで、文化財センターでは森田家住宅の解説付き動画を作成し、文化財センター展示室のモニターで視聴できるようにしております。お気軽にご来館ください。(動画はYouTubeなどでもご覧になれます。)

森田家住宅以外にも町の文化財に関する展示を行っています。



吉岡町
教育委員会HP
森田家住宅

文化財センター所在地

〒370-3604
群馬県北群馬郡吉岡町南下1322-12
問合せ先 ☎0279-54-9443

月曜日休館(月曜日が祝日の場合は翌日が振替休館)
展示室の見学：午前9時～午後4時

森田家住宅 及び吉岡町文化財センターのアクセスマップ



令和5年11月 発行

伊香保街道 野田宿

森田家住宅

もりたけじゅうたく



もりたけじゅうたく しゅおくしよいん ながやもん
森田家住宅(主屋・書院・長屋門)
所在地 群馬県北群馬郡吉岡町上野田677

森田家は伊香保街道の野田宿において四百年の歴史を有し、江戸時代には本陣として重要な役職を務めました。歴代当主は学問・芸術を重んじ、森田梅園(1784年～1862年)は書家として、その子森田梅子(1810年～1871年)は狩野派の画家として名声を博しました。その故を以て蘭医高野長英や画家渡辺崋山、歌人橋本直香などそうそうたる文化人が訪れました。細川豊前守御母堂も森田家に滞在しています。



主屋

主屋は木造二階建、屋根は切妻造銅板瓦棒葺、外壁は漆喰仕上と下見板張。正面二階床を「出し梁造」正面二階軒を「船柁造」としています。

土間と床上境の柱に手斧の痕跡、茶の間の敷居と鴨居の三本溝、大黒柱がないなど、古い建築の特徴がみられ、江戸時代中期の築造と思われます。

長屋門

長屋門は県道前橋伊香保線（伊香保街道）に面し、重厚で荘厳な建物です。木造二階建、入母屋造棧瓦葺で化粧垂木は漆喰仕上を施しています。外壁は腰壁を「海鼠壁」とし、水切りを付け上部を漆喰仕上としています。間口約27m、奥行約6m、基礎から軒までの高さは約5mあります。

中央には櫺の観音開きの大扉と脇に潜り戸が付いています。築造年代は大正時代後期です。



書院

書院は主屋の南西にあり、木造平屋建、屋根は寄棟造銅板瓦棒葺、外壁は漆喰仕上と下見板張、南に塀で囲んだ庭園があります。

書院の内部は上段の間と次の間を配し、上段の間の床の間脇天袋・地袋の小襖絵に、狩野派「狩野了承」(1768年～1846年)の銘があります。

床の間の壁には、着物の柄の型紙を壁にあてて模様をつける「オトメヌリ」という非常に珍しい左官仕上げが施されています。

書院の築造は狩野了承の銘や北側敷居が三本溝であることから江戸時代後期と思われます。



天袋・地袋の小襖絵



書院 上段の間



書院の庭園